

進路だより 第2号

令和6年6月 20日
愛媛県立北宇和高等学校

1年生の皆さんは、高校に入学して2か月が過ぎました。高校生活にも慣れてきて、勉強にも部活動にも意欲的に取り組んでいることでしょう。6月末には期末考査もあります。考査期間中はテスト勉強に集中し、家庭学習習慣や自分に合った学習方法を確立しましょう。

2年生の皆さんは、自分の進路に向けて日々努力していますか。1年生の頃は学校生活に慣れるのが精いっぱいだったと思いますが、次は具体的な進路について考え行動していきましょう。

3年生の皆さんにとっては、進路実現のための期末考査が近づいています。今回の成績は3年生としての成績に大きな影響を与える大切なテストです。大学進学、奨学金、特待生制度、就職試験など自分にとって有利な状況を作ることができるよう、最後まで粘り強く取り組みましょう。

進路に関する活動報告

1年生普通科『北辰Ⅰ』（総合的な探究の時間）

1学期の北辰Ⅰの時間には、鬼北町の企業にインタビューに伺い、その内容をまとめて北高版「お仕事図鑑」を作成しています。生徒は班に分かれて下調べの後、5月中旬、実際に企業を訪問してお話を伺いました。訪問前には、各班の代表者が企業に予約の電話をしたことも、良い経験になりました。その後、タブレットを用いてまとめています。最初は苦戦していましたが、班員と協働しながらうまくまとめています。また、今回の活動では、探究活動のサイクルを体験することもできました。

9月には、インターンシップも予定されています。自分の興味関心や得意不得意に気付いたり、働くことの意義や企業の役割についての理解を深めたりしながら、将来について考える機会にしてもらいたいと思います。まさに自分自身が主役の北辰Ⅰの時間となっています。自分自身の将来を見つめ、能力を高めることができるよう、主体的に取り組んでいきましょう。



2年生普通科『北辰Ⅱ』（総合的な探究の時間）

北辰Ⅱの時間は、次の5つのテーマに分かれて班活動を行っています。テーマをご紹介します。

①等妙寺 PR

等妙寺を取り巻く遺跡群にこの秋、資料館がオープン！多くの人に知って欲しい。等妙寺遺跡群を PR しよう！

②北高チャンネルへの道

ケーブルテレビが全面協力！北高をアピールしたい。北高チャンネルの定期放送を欠かさずクリアしよう！

③古民家活用

電気のない古民家を復活させよう！鬼北町の商店街に火をともしたい。あわよくば町民のたまり場に！

④中学生おもてなし～入学祭～

入学前からワクワクする企画を順次お届け！中学生にもっと「まだまだ進化する北高」を感じてもらいたい。ラストは入学祭！

⑤鬼イベント

もっと鬼鬼したい！全国にPRできるイベントが欲しい。老若男女楽しめる鬼アピールイベントを考えよう！

昨年度の北辰Ⅰでは、「自分でやりきる」を目標に、調査・研究からプレゼンテーション資料の作成・発表までを何とか一人でやりきりました。この経験から、今年度は少し(?)ハードルを上げて、「グループ内で、自分を生かしながら、探究の質を上げる」ことを目標に活動しています。北辰Ⅱでの活動を通して、他者と協力して効率的に進める方法や、グループ内で自分を生かす方法、課題を設定して適切に検証する方法を学びましょう。これらは社会に出るととても大切な力となってきます。

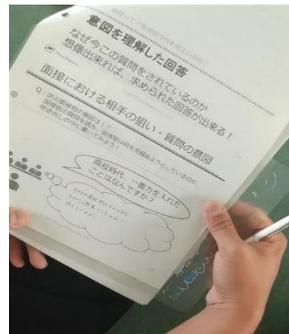
北辰Ⅱ、わくわくするテーマがそろっていますね。存分に楽しみながら真剣に取り組んで、いろいろな能力を高めてほしいと思います。



どんな企画にするか・・・まずは現地調査により課題を把握。
上:古民家 下:等妙寺

3年生普通科『北辰Ⅲ』(総合的な探究の時間)

今年度から新たに始まった『北辰Ⅲ』。3年生は就職組と進学組に分かれて志望理由書の作成や面接に向けての面接ノート作りに取り掛かっています。



この日は3年生全体に向けて、①「面接官の頭の中」を知る②「相手に伝わる伝え方」を知るをテーマに Prima Pinguino の岡田さんに面接対策の講義をしていただきました。面接官は「・相手の話をきちんと聞くことができるか・自分の考えをきちんと言うことができるか・会話のキャッチボールができるか・入学、就職したいという主体的な態度があるか」など、受験生の「人間性」を見ています。質問の意図をきちんと理解し、PREP法、STAR法を用いて物事や自分の考えを論理的に伝えたり個性やエピソードを分かりやすく相手に伝えたりすることが大切であることを学びました。これらの力は一朝一夕で身に付くものではありません。6月からエントリーや面談が始まっている学校もあります。隙間時間を活用して面接ノートを作成したり、普段から面接を意識した話し方を心掛けたりする必要がありますね。

3年生全員が志望先に合格し、人間的に成長した姿で来年の4月を迎えられるよう、全体で協力しながら一歩ずつ進んでいきましょう。